



1. 背景とねらい

富山県では、平成15年頃から早期多収、省力化というメリットを活かしたリンゴわい化栽培を推進していますが、近年、中生品種を中心に接ぎ木親和性が一因と考えられる樹勢衰弱が問題となっています。そこで、近年、導入を奨めている優良中生品種について、わい性台木「JM7」、「M.26」を利用した場合の幼木期の樹体生育と親和性を明らかにしました。

2. 成果の内容

・「JM7」台木を利用した幼木期の生育量について、「秋陽」、「シナドルチェ」、「シナノスイート」は同等ですが、これら3品種に比べ「シナノゴールド」はやや劣る傾向があります(表)。

・「M.26」台木を利用した幼木期の生育量について、「秋陽」、「シナドルチェ」、「シナノスイート」は同等ですが、これら3品種に比べ「シナノゴールド」はやや劣る傾向があります(表)。

・幼木期において、4穂品種と2台木品種の組み合わせでは、生育の停滞が確認できなかったことから、いずれの穂品種も「JM7」、「M.26」台木に対して親和性があります(表)。



図 供試樹の生育状況

表 わい性台木に接いだリンゴ優良中生品種の接ぎ木5年目の生育(2019年)

穂品種	台木	供試 樹数 (本)	樹高(cm)			主幹延長枝 長 (cm)	台木部		穂木部 ^z		樹冠 ^y	
			切り返し前 (前年12月)	切り返し (3月下旬)	12/11		接ぎ木こぶ径 (cm)	穂木部径 (cm)	幹周 (cm)	樹冠占有面積 (m ²)	樹冠容積 (m ³)	
秋陽	JM7	6	216.3 a ^w	198.6	276.0 ab	77.4 ab	6.7 ab	3.5 a	9.4 a	1.83 abc	1.76 ab	
	M.26	5	261.9 bc	214.6	292.2 ab	77.7 ab	10.6 c	4.6 bc	14.4 bc	3.28 d	3.22 c	
シナドルチェ	JM7	7	237 ab	203.1	271.4 ab	68.3 ab	6.7 ab	3.4 a	10.6 a	1.65 abc	1.49 ab	
	M.26	5	252.2 abc	216.6	279.3 ab	62.6 ab	7.8 b	4.8 c	14.9 c	2.68 cd	2.49 bc	
シナノスイート	JM7	7	228.3 ab	200.4	270.1 ab	69.7 ab	6.8 ab	3.5 a	11.0 a	1.54 abc	1.41 ab	
	M.26	5	284 c	217.3	306.1 b	88.9 b	7.8 ab	5.0 c	15.6 c	2.15 bcd	2.20 bc	
シナノゴールド	JM7	7	241.2 ab	211.8	259.5 a	47.8 a	6.2 a	3.5 a	11.0 a	0.91 a	0.80 a	
	M.26	5	221.3 ab	202.1	251.3 a	49.2 ab	6.5 ab	3.6 ab	11.3 ab	0.99 ab	0.83 a	
有意性 ^x			**	n.s.	*	*	**	**	**	**	**	

z: 穂木部径と幹周は、接ぎ木部の上部20cmを計測。

y: 樹冠の水平面に対する投影面積を円に近いと仮定して、4方位の樹冠径から平均樹冠径を求め、円として樹冠占有面積を求め、樹冠容積は直円錐として算出した。樹冠容積=樹冠占有面積×樹高/3。

x: 分散分析により、**は1%、*は5%で有意差あり、n. s. は有意差無し。

w: 異符号間はTukeyの多重検定により、5%水準で有意差あり。

3. 成果の活用

リンゴわい化栽培において、優良中生品種を導入する際の台木品種の選定に活用できます。